

通し番号	4404
------	------

分類番号	20-56-22-12
------	-------------

(成果情報名) 食品残さ飼料による黒毛和種肥育
[要約] 生トウフ粕、パンくず及び白菜を原料として乳酸発酵処理した食品残さ飼料を用い、黒毛和種去勢牛を対象に肥育試験を行った。 その結果、8ヶ月齢から16ヶ月齢の間は、市販肉用牛肥育用配合飼料を用いた対照区と比べほぼ同様の体重推移を示し、乾物TDN摂取量も両区間に大きな差は見られなかった。
(実施機関・部名) 神奈川県畜産技術センター 畜産工学部 連絡先 046-238-4056

[背景・ねらい]

近年、自給率向上や資源の有効活用の観点から、食品残さ飼料に関する取り組みが全国で推進されている。そこで、低コストな食品残さ飼料を調製し、これを黒毛和種に対して給与する肥育試験を行い、高品質な牛肉生産を目指す。

[成果の内容・特徴]

- 1 食品残さ飼料を濃厚飼料とする試験区、及び市販肉用牛肥育用配合飼料を濃厚飼料とする対照区の2試験区を設け、黒毛和種去勢牛を各区4頭用いて8ヶ月齢より給与試験を実施した。
- 2 食品残さ飼料は、攪拌機により原料を混合後乳酸発酵処理を実施し調製した。飼料給与は表2に示す通りで、両区とも2週間毎の体重をもとに日増体量1.0のTDN要求量を給与した。
- 3 体重推移は両区ほぼ同様の推移を示し、大きな差は見られなかった(図1)。
- 4 乾物TDN摂取量は、11ヶ月齢までは対照区が試験区をやや上回ったが、12ヶ月齢以降は両区ほぼ同様の推移を示した(図2)。

[成果の活用面・留意点]

今年度の結果は、8ヶ月齢から16ヶ月齢の肥育成績について検討しており、16ヶ月齢以降も食品残さ飼料を用いた肥育試験を継続して実施し、発育状況、飼料摂取状況、健康状態及び肉質成績に及ぼす影響を調査検討する。

[具体的データ]

表 1 食品残さ飼料の原料配合割合及び栄養成分（乾物％）

	配合割合	粗蛋白質	粗脂肪	NFE	粗繊維	粗灰分	TDN
食品残さ飼料		17.5±0.4	4.9±0.6	72.1±0.9	2.7±0.4	2.9±0.1	97.2
生トウモロコシ	19.1(35)	25.9	9.8	39.3	20.9	4.1	89.8
パンくず	80.1(55)	14.8	3.9	78.6	0.4	2.3	99.3
白菜	0.7(10)	25.7	2.7	33.8	12.8	25.0	60.2

※（）内は原物割合

表 2 給与飼料及び栄養成分（乾物％）

	給与飼料	給与割合	粗蛋白質	粗脂肪	NFE	粗繊維	NDF	粗灰分	TDN
試験区	食品残さ飼料	46(63)	17.5	4.9	72.1	2.7	17.7	2.9	97.2
	スターングラス乾草	48(33)	4.8	1.6	53.8	30.2	67.5	9.7	55.4
	アルファルファ乾草	6(4)	14.3	2.5	46.1	24.3	44.6	12.8	52.3
			11.1	3.1	61.2	17.1	43.3	6.7	74.4
対照区	市販配合飼料	73(74)	14.6	3.8	71.3	4.5	35.1	5.8	81.4
	スターングラス乾草	27(26)	4.8	1.6	53.8	30.2	67.5	9.7	55.4
			11.9	3.2	66.5	11.5	44.1	6.9	74.3

※（）内は原物割合

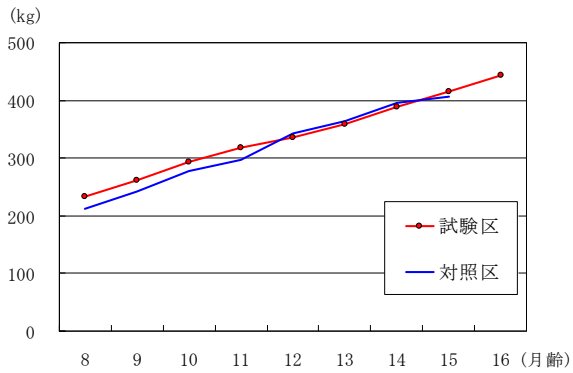


図 1 体重推移

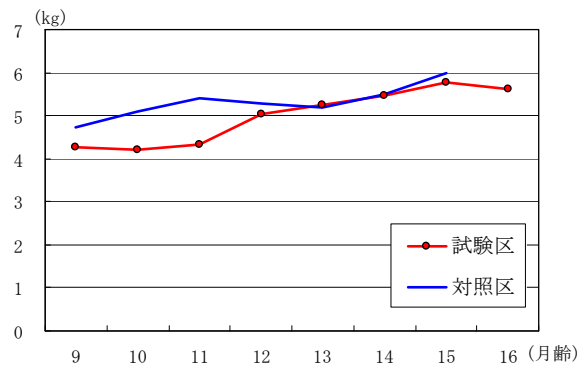


図 2 乾物 T D N 摂取量

[資料名] 平成 20 年度試験研究成績書

[研究課題名] 食品残さ利用による肉用牛の低コスト生産技術の開発

[研究期間] 平成 18～21 年度

[研究者担当名] 水宅清二、秋山清、折原健太郎

(共同研究：中央カンセー株式会社、株式会社バクファージャパン)